

# 中国の0歳児の性比について

安井 浩子\* (統計情報研究開発センター)・井出 満 (大阪産業大学)

## 1 目的

日本の『2000年国勢調査』の0歳児の性比は105.1であり、世界的に見ても、105前後の国が多いのに対し、中国の『2000年人口普查』の0歳児の性比は117.8であることから、中国の0歳児の性比の高さは異常的であるといえよう。<sup>1)</sup> この事実について、『2000年人口普查』から中国の地区(省レベル)別0歳児の性比についてみる。また、『中国統計年鑑』(2003)に掲載されている地区別の各種統計指標を用いて、地区別に0歳児の性比との関連を分析し、中国の0歳児の性比の高さの要因を明らかにする。

## 2 地区(省レベル)別の0歳児の性比

『2000年人口普查』には4つの直轄市、5つの自治区、22の省で合計31地区の人口データが掲載されている。0歳児の性比を地区(省レベル)別にみると、チベット自治区の102.6と新疆ウイグル自治区の105.8は低いが、それ以外の地区では高い性比になっている。図1でみるように、その中でも東南地域は高い性比を示している。



図1 地区別中国の0歳児の性比(2000年)

## 3 0歳児の性比と主要統計指標との相関係数

表1は、0歳児の性比と主要統計指標との相関係数の結果を示したものである。0歳児の性比と相関係数が高い統計指標は皆無である。そのうち正の相関が最も高い統計指標は、「女子(15~49歳)の1人当たり平均出生児数」の0.3295であり、負の相関が最も高い統計指標は、「人口10万人当たり医師(Doctors)数」の-0.4180である。これらの結果を相関図を示したのが、図2および図3である。

主要統計指標		相関係数	主要統計指標	相関係数
3次産業別就業者数の構成比 (%)	第1次産業	0.0924	人口10万人当たり医療機関数	-0.2613
	第2次産業	-0.0981	人口10万人当たりベット数	-0.3906
	第3次産業	-0.0662	女子(15-49歳)1人当たり平均出生児数	0.3295
人口10万人当たり医療機関従事者数	合計	-0.2970	平均家庭戸規模(人)	0.1772
	医療関係者	-0.3063	1人当たりGDP(元)	-0.1468
	医師	-0.4180	文盲率(%)	-0.2586
	医師	-0.3931	平均寿命	0.2368
	看護師	-0.2097		

表1 0歳児の性比と主要統計指標との相関係数

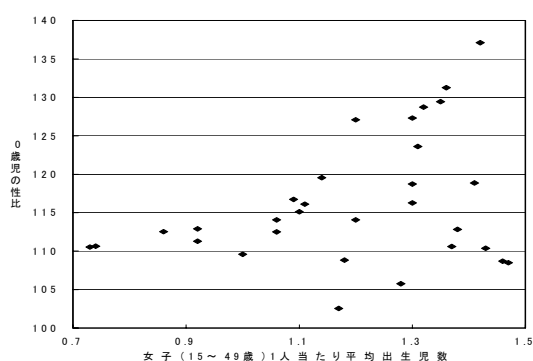


図2 0歳児の性比と女子(15~49歳)1人当たり平均出生児数との相関図

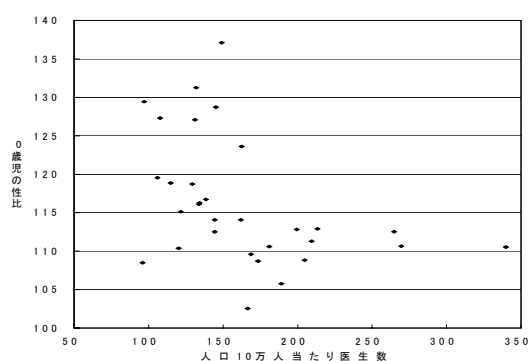


図3 0歳児の性比と人口10万人当たり医師数との相関図

#### 4 少数民族の多い自治区など影響

図2でみるように、相関関係を攪乱させていると思われる地区として、少数民族が多い内モンゴル、チベット、ネイ、カ、カイ、ソグ、シンキョウ、ウイグルなどの自治区および貴州省、雲南省、青海省であり、これに少数民族が多い広西チワン族自治区を加えた8地区(少数民族が20%以上の地区)を除くと、相関係数が0.3295から0.7097に上昇する。これは、少数民族に強制されていない「一人っ子政策」の影響で、出生児数が多いが、男女を自然的に出生しているため、0歳児の性比がそれほど高くないと思われる。「女子(15~49歳)1人当たり平均出生児数」が多い地区では、「一人っ子政策」を遵守せず、不自然に男女を生み分けているため、0歳児の性比が異常に高くなっているものと思われる。<sup>2)</sup> 図3では、相関関係をそれほど攪乱させている地区はないが、-0.4180から-0.5135へと若干上昇している。「人口10万人当たり医師数」より「人口10万人当たりベット数」の方が-0.5507と相関が高くなっている。このように医療関係が充実している地区では、「1人当たりGDP」が高いといった経済水準との関係が強くなっている。

#### 5 結論

中国の不自然な0歳児の性比を是正するためには、「一人っ子政策」の見直しと、経済水準を高め、かつその地域差を是正する必要がある。

[参考文献]

- 1) 井出満「諸外国の0歳児の性比について」『大阪産業大学経済論集第5巻第3号』、2004
- 2) 周美林「中国の出生性比不均衡についての現状と問題」『日本人口学会第56回大会報告要旨集』、2004